

編集室から

With You第3号ではあの有名なアル・ゴアさんのご来社やシンガポール支店が参加したチャリティーイベントを紹介することができ、国際色豊かな紙面となりました。洋の東西を問わず三井住友信託銀行からCSRの発信を続けていきたいです。

東西と言えば、今号掲載の生きもの応援活動は東(小田原支店)のメダカと西(八尾支店)のニッポンバラタナゴの絶滅危惧種の東西対抗となっています。どちらも支店内の水槽で順調に繁殖していて、今後も楽しみです。みなさまも、ぜひ貴重な魚たちを見に、支店にお越し下さい。

最後にうれしいお知らせを一つ。以前、こちらでもご紹介した山口防府支店が、森林整備活動や登山清掃など継続的な地域貢献活動が評価され、地元の防府ロータリークラブから優良従業員として表彰を受けました。

限りある紙面ではすべての活動をご報告することができませんが、全国のWith You活動を支店ごと「With You支店ブログ」として弊社ホームページにまとめています。下にアドレスが載っていますので、ぜひ一度アクセスしてご覧になってください。
(編集室F.G.)

表紙のトラスト地紹介

北限のブナ林(北海道)

ブナは温帯を代表する樹種で、日本では鹿児島県大隅半島を南限に、主に東日本に分布しています。北海道の「黒松内低地帯」はそのブナ自生の北限であり、「歌オブナ林」は1928年に国の天然記念物に指定されています。ブナには、その豊かな保水力で大地を潤し、多くの生きものを育み、人里を水害からも守ってくれる働きがあります。黒松内町では、ブナを題材にした町づくり「ブナ北限の里づくり」を開始、町ぐるみで保全活動につとめています。

その結果、ブナの森が持つ独特の雰囲気、四季折々の変化の美しさに魅せられた人々が、道内外からリピーターとなって何度も訪れ、着実にファン層が広がっています。実は、歌オブナ林は過去に2度、伐採計画が持ち上がりました。しかし、その価値を学術的に高く評価する研究者や地域住民の反対がこれを救い、現在に至っています。

一方で、ブナ林を所有する町内外の地権者が木材チップ業者等に土地を売却するケースも増えてきています。「北限のブナ林」が北海道に残るよう、当社は(公財)日本生態系協会と連携し、ブナの森の取得に向けたナショナル・トラスト活動を支援しています。



冬の寒さに耐える北限のブナ

**食卓からエコ!
かんたんエコレシピ**

お刺身に付いてくる大根のツマ、いつも残していませんか?手軽に即席オイキムチにしてみませんか?お酒のおつまみにも最適な一品です。

つま大根の即席オイキムチ

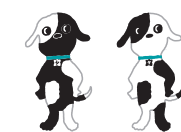
ポイント
「残りものを上手に使う一品プラス」
普段は残りものになりがちが大根のツマも、ひと手間かければ立派な一品に。大根には消化酵素が豊富に含まれ、胃腸のはたらきを助けます。



調理時間の目安 5分
材料(2人分)
大根のツマ …… 1人前
きゅうり …… 中1本
キムチの素 …… 大さじ1

作り方
1. きゅうりは6等分に切り、片方の切り口に十文字の切り込みを入れます。
2. 大根のツマは食べやすい長さに切り、キムチの素を混ぜます。
3. 1のきゅうりの切り口に2の大根をはさみます。

(出典)農林水産省 めざましごはん 



シンジル & タクセル

三井住友信託銀行の
キャラクター
シンジル&タクセル

With You活動のより詳しい情報は、
WEBサイトでも紹介しています。
<http://www.smtb.jp/csr/withyou/>

With You支店ブログ
<http://branchblog.smtb.jp/>



ユニバーサルデザイン(UD)の
考えに基づいた見やすいデザ
インの文字を採用しています。



With You

2012年社会貢献活動レポート vol.3

● Special Topic

持続可能な社会の実現のため、今求められる投資手法とは
— アル・ゴア氏と当社社長が対談 —

● 支店活動紹介

小田原支店 八尾支店 京都支店 シンガポール支店

● トラスト地紹介

北限のブナ林(北海道)



三井住友信託銀行
SUMITOMO MITSUI TRUST BANK

持続可能な社会の実現のため、今求められる投資手法とは

～アル・ゴア氏と当社社長が対談～

元米国副大統領であり、地球環境問題の論客としても知られるアル・ゴア氏が10月、三井住友信託銀行を訪問し、当社取締役社長の常陰 均と、持続可能な社会の実現を目指す金融機関としてお互いの取り組みなどについて、幅広く意見を交わしました。

長期的な視点に立ち SRIの収益性を高める

ゴア氏は、クリントン政権時代の1993年から2001年まで米国副大統領を務めていましたが、学生時代に興味を持った地球温暖化問題については1970年代から啓蒙活動を行っており、その講演の様様をドキュメンタリー化したものが映画『不都合な真実』として公開されました。2007年10月には、これらの環境啓蒙活動が評価され、気候変動に関する国際的な専門機関であるIPCCとともにノーベル平和賞を受賞しました。

その後のゴア氏の環境問題に対する取り組みは啓蒙活動にとどまらず、金融の力を使って解決につなげる取り組みとしては、米国大手投資銀行の元CEOであるデービッド・ブラッド氏とともにSRI(社会的責任投資)に特化した資産運用会社、ジェネレーション・インベストメント・マネジメント(GIM)を立ち上げました。これまで積極的にSRIを進めてきた三井住友信託銀行とは、環境問題に対する姿勢、さらには持続可能な社会づくりを目指すという点で志が一致していることから、来日を機に意見交換の目的で、当社を訪問されました。

今回の対談では、ゴア氏が冒頭で「創業以来私たちが目指しているのは、サステナビリティへの配慮を投資手法に組み込むことを通じて、より大きなリターンを生み出すこと。そこには長期的な視点が欠かせません」と話し、常陰も「当社もSRIの効果的な手法を確立していくために試行錯誤が続いています」と述べ、投資収益の高いSRIを目指すお互いの姿勢を確認し合いました。



(左から)デービッド・ブラッド氏、当社取締役社長 常陰 均、アル・ゴア氏

よりよい投資判断へ導く 「持続可能性」というレンズ

ゴア氏とブラッド氏は、SRIについて「当社の投資アプローチは、収益と引き換えに道徳的価値を選ぶものではありません。私たちはサステナビリティというレンズを通して、高いリターンを生み、他社に勝る投資判断ができるものと信じています」とGIMにおける運用の基本的な考え方を示しました。

両氏は2012年に「持続可能な資本主義のためのマニフェスト」を発表したことで注目されており、世界経済が大転換期を迎えた今、新たな可能性を切り拓くために必要なアクションを企業や投資家に提言しています。「人間は目に見えるものだけが重要だと思いがちです。しかし、短期間で数字に現れるような経済価値だけが全て

なのではなく、環境や雇用、地域社会などあらゆる価値をともに考える必要があります。そうした投資こそ最も効果的であると認識され、いずれは主流になると信じています」とゴア氏は語り、サステナビリティという考え方を取り入れることが、より良い投資判断を導くという考えを示しました。

公益のための運用を続けてきた 歴史を土台に

常陰からは、三井住友トラストグループが1999年に日本初のSRIファンドの提供を開始し、2003年には企業年金からSRIファンドの運用を受託するなど、常に業界をリードしてきたこと、さらにそれ以後も現在にいたるまで、確定拠出型年金や公的年金等に幅広くSRIを提供するなど、マーケット拡大への貢献を続けてきたことを紹介しました。「もともと当社は、公益のために財産を提供したいと考えるお客様に向け公益信託の管理・運用を長く続けてきた歴史を持ち、サステナビリティへの取り組みは企業文化に馴染んだものといえます」と常陰。

今回の対談は、両社が違った歴史を持ちつつもさまざまな重なる理念を持つことが明らかになり、双方にとって大変有意義なものでした。また、同じ金融機関として持続可能な社会の実現をどう目指していくべきか、これからも意見交換を続けることを約束し、約1時間にわたる対談の幕を下ろしました。

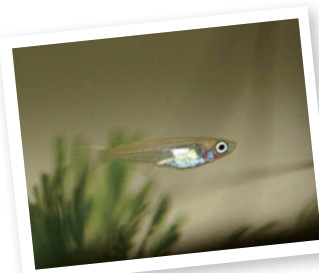


支店活動紹介

環境・生きもの応援活動

小田原支店

メダ課員がメダカを育てる ～酒匂川(さかわがわ)のメダカの里親制度～



今も広く親しまれる童謡「めだかの学校」は、終戦のころ、小田原に在住していた茶木滋氏が、自宅近くの荻窪用水で息子と交わした会話をもとに作詞したそうです。かつて、メダカは日本中で見られる身近な淡水魚でしたが、その後の環境の変化により数が激減。今では環境省のレッドリストに載る絶滅危惧種になっています。

小田原市の酒匂川は、野生メダカの貴重な生息地のひとつで

す。当店も、酒匂川のメダカの保護に参加しようと、小田原市が募集する「メダカのお父さんお母さん」になり、今年7月からメダカを飼育しています。14年続くこの制度には、これまでに1,400を超える世帯が参加。「メダカセミナー」で学んだ当店「メダ課」員が、市の環境部からいただいたメダカを大切に育てながら、繁殖しやすい環境を守っています。この秋には店頭の水槽で新たに15匹の子メダカが誕生し、愛らしい姿を見せてくれています。これからメダカの里親として、子メダカたちの成長を見守っていきます。



小田原支店
内藤 彩香

サクセスフルエイジング

京都支店

「お客さまと同じ目線」に立つことの大切さ ～高齢者疑似体験講習会を開催～



当店には日々、ご高齢のお客さまが大勢いらっしゃいます。私たちはお客さまの立場に立った接遇を心掛けておりますが、実際にお客さまが日々の生活にどのような不自由を感じておられるか、本当に理解するのは容易ではありません。そこで当店では10月、介護実習普及センターから講師をお招きして「高齢者疑似体験講習会」を開催し、35名の社員が参加しました。

高齢者・介助人・案内係の3役を交代しながらお客さまの応対



京都支店
渡邊 美穂

環境・生きもの応援活動

八尾支店

淡水二枚貝に卵を産む不思議な魚?! ～ニッポンバラタナゴを飼育しています～



皆さんは、ニッポンバラタナゴという魚をご存知でしょうか?コイ科の淡水魚で、古くから池や沼に生息する日本固有の魚です。オスは5月の繁殖期に体を薄紅色に変えますが、この姿がまるで薔薇のように美しいことからこの名前が付けられました。メスは淡水二枚貝に産卵する、不思議な習性があります。

しかしこのニッポンバラタナゴは徐々に生息地が狭まり、絶滅

の危機に面しています。今では当店のある大阪府八尾市のほか、四国の高松市などのごく限られた地域にしか生息していません。

生きものを絶滅から守るために大切なのは、一人でも多くの人が関心を持つこと。当店ではNPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会の方々の協力を得て、2005年から店頭でニッポンバラタナゴを飼育しています。当初の5匹から現在では10匹に増え、水槽で元気に泳いでいます。ご来店いただく沢山のお客さまに鑑賞していただき、興味を持っていただければ嬉しい限りです。



八尾支店
宮川 沙樹子

地域・社会サポート

シンガポール支店

歩こう!こどもたちの未来のために ～[The POSB PAssion Run for Kids]に参加～



今年で開設31周年を迎えた当店では今年9月、チャリティイベント「The POSB PAssion Run for Kids」のファミリーウォークに、社員とその家族67名が参加しました。このイベントは、シンガポールの金融機関POSBと人民協会が毎年開催しており、イベントで集まった参加費は子どもたちの教育支援に使われます。今年は総勢8,000人が参加し、昨年の3倍近くの約100万ドルの資金が集ったそうで、当社もこのイベントの主旨に

賛同し、寄付を行いました。9月といえども、シンガポールは毎日が真夏のような暑さ。3.5kmのウォーキングはかなりハードで、みんなで汗を流し、普段の運動不足も解消できました。こうしたイベントに色々な人種の人々が参集するのも、国際都市シンガポールならではの光景です。歩くだけ、走るだけのシンプルなイベントですが、このチャリティによって、多くの子どもたちが教育を受ける機会を得て、希望を持って生きていけることを願っています。これからも当店は、よりよい社会づくりに取り組んでいきます。



シンガポール支店
田坂 亮